

令和7年度永山まちづくり実行委員会の事業報告及び決算

(単位：円)

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
1	地域のオタスケマン事業 (地域のオタスケマン 実行委員会)	<p>永山西小学校にて市民委員会の会長、防犯部長、交通部長の3名で、3年生児童62人に地域のボランティアについての授業を行った。初めに、役員それぞれの役割についてお話し、後半は子供達からの質問に答えた。</p> <p>ごみ、防犯灯、お祭り、役員の決め方等多種にわたる質問があった。</p> <p>北海道新聞、あさひかわ新聞の取材を受けた。</p> <p>・開催日 令和7年10月30日(木)</p>	<p>自分たちもボランティアに参加したいという子供が多く、大変有意義に終えることができた。</p> <p>15年に渡り、永山西小学校で地域のボランティアの授業を行ってきましたが、子供達が自らボランティアを行った例(ごみ拾い)もあり、将来別の地域に住んでもボランティア(町内会加入も含め)を進んで行う大人になってほしい。現在永山西小学校だけで行っているが、永山の全ての小学校、中学校にも広めていくのが課題である。</p>	5,000	済 予 計	0 0 0 5,000
2	令和7(2025)年度「第39回永山屯田まつり」永山屯田まつり舞踊パレード交流活動事業 (永山屯田まつり舞踊パレード交流活動実行委員会)	<p>令和7年度は旭川市立大学の学生並びに職員全ての希望者を対象とした。</p> <p>・事前練習日 令和7年7月15日(火) 18:00～ 永山公民館大ホール</p> <p>永山南西地区市民委員会の女性部長から踊りのご指導をいただいた。大学からは、学生と職員の2名に参加していただいた。</p> <p>・屯田まつり舞踊パレード当日 令和7年7月27日(日)</p> <p>控室を公民館に2部屋用意し、法被、鳴子の配布を行いパレードに備えた。学生と職員の皆様に2グループにし、市民委員会参加者を先頭に配置してパレードに参加。大学の皆様も事前に練習していただいたので、大変すばらしいパレードになり、沿道の皆さんからも大きな声援と拍手をいただいた。</p> <p>旭川市立大学学生24名、職員14名 計38名 永山第二地区市民委員会 22名 舞踊パレード参加者 計60名</p>	<p>旭川市立大学の積極的なご支援により、多くの皆様に参加いただいた。7月末が期末試験となるため、学生や職員の皆様も大変多忙な中で、対応いただいたことに心から感謝する。</p> <p>今後は、旭川市立大学の学校祭”北辰祭”への支援を進め、大学との連携をさらに深める。</p>	5,000	済 予 計	0 0 0 5,000
3	まちづくりニュース作成事業 (まちづくりニュース作成実行委員会)	<p>永山まちづくり推進協議会の各実行委員会の活動をまとめた「永山まちづくり推進協議会NEWS」を発行。</p>	<p>市内各施設への設置や、まち協の活動実績を伝えるパネル展などに配置し、永山まちづくり推進協議会の活動を周知した。</p>	50,000	済 予 計	15,149 0 15,149 34,851

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
4	永山地区子どもの学習支援事業 (永山地区子どもの学習支援実行委員会)	<p>大学生を中心とするボランティアが自主学習を行っている児童・生徒等に対し、見守りや、求めに応じ予習・復習、宿題の支援を行った。 その他、感染拡大防止にかかる各種対策、事業周知、小中学校夏期休暇中の学習支援を実施した。</p> <p>実施日 令和7年4月7日から令和8年3月29日まで 毎週月曜日各日 午後3時から午後5時まで</p> <p>被支援者数(2月末時点) 毎週月曜日 42回、児童・生徒等 159名 大学生 78名</p> <p>実施場所 永山公民館 音楽室</p>	<p>学生ボランティアによる児童、生徒の見守りを行うことができた。 児童や生徒の学習支援を行うことは、将来教員を目指している学生ボランティアの学びにもなっている。 自習室が居場所になっている利用者もいることから、今後も継続して当該事業を実施していきたい。</p>	30,000	済 12,508 予 0 計 12,508	17,492
5	スープの冷めない“きずな”づくり事業 (スープの冷めない“きずな”づくり実行委員会)	<p>人が生きていくうえで大切な「食」を中心とした「野菜スープ」をキーワードとし、高齢者と学生が交流を図る。 永山の農業関係者と地域の方との連携による健康の増進と、人とのつながりによる心の健康維持を目的とし、旭川市立大学・短期大学部お料理研究サークルの学生が作った永山産の野菜を中心としたスープとおにぎりを提供する。 今年度3回(5町内会)行った。町内会単位として、対象者にスープとおにぎりをお渡しした。 メニューは旭川市立大学・短期大学部の学生が考え、当日の調理も行った。当日は、旭川大学の学生も参加し各2-3人のグループをつくり、町内会の役員やボランティアの方々の協力を得、高齢者宅等へ訪問した。 面談時には、生活の困りごとなどの聞き取りを行った。栄養に関して確認したりするなどし、交流を深めた。</p> <p>・実施日・実施地区・参加人数(学生含む) ①令和7年10月19日(日) 第2永山団地：130名 ②令和7年11月15日(土) 永山三区第四町内会：59名 ③令和8年2月7日(土) 第一永山団地：62名</p>	<p>新たな地域に関しては、役員との打ち合わせや当日のスケジュールなど意見交換し、開催に至ったが、どちらの地域も「特に学生との交流がよかった」「久しぶりに若い方との交流ができて楽しかった」など、学生が関わることで地域住民の笑顔が増える活動につながることを再認識できた。スープは主に永山で採れたものを使い、最近力を入れている「さつまいも」を使い、さつまいもに関しても周知した。 今年度は昨年度よりも、学生と交流を深めるために、面談シートを作成し、訪問等行ったが、1回目よりも3回目の方が学生自身が面談力を高め、楽しく交流もできていたように感じた。早めに相談にのる必要性のあるケースをピックアップしてくれた学生もおり、支援の必要な方の早期発見にもつながった。 今年度も、旭川市立大学の学生に当日の参加を呼びかけた。専門が違うことによる視点の違いや、面談技術の違いなども学んでいた。今後の学内連携にも期待したい。</p> <p>物価高による予算の確保、また地域をどのように広げていくか、実施した地域でのゴール設定をどうするか、栄養改善等の評価をどうしていくかなどが今後の課題である。</p>	参加料収入 10,600円を含む 110,600	済 85,421 予 0 計 85,421	25,179

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
6	永山健康マイレージ事業 (永山健康マイレージ 実行委員会)	<p>過去の栄養調査やオーラルフレイル調査から、介護予防のためには口腔と栄養の大切さを永山住民に知ってもらう目的で永山健康マイレージ事業を企画。</p> <p>永山健康マイレージチラシを作成し、スーパーと医院・歯科医院、各町内会館に配布。旭川市立短大の学生が作成した栄養レシピを、イオン永山店の食料品売り場に設置し、積極的に摂りたい栄養の周知を行った。</p> <p>8月から、食生活改善推進員、地域住民、管理栄養士による調理実習、包括保健師による適正体重の講話、歯科衛生士による口腔講話を3回実施。</p> <p>9月に防災×健口セミナーも開催し、歯科医・歯科衛生士による緊急時の口腔についてと平時からの口腔ケアの重要性の講演を行った。</p> <p>永山住民が歯科受診・10食品群チェック・歯みがき・口腔体操に取り組み、マイレージに応募。1月に抽選会を行い、協賛企業の賞品配布時に、取り組みを行ったことでの変化についてアンケートを実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・調理実習+口腔講話 3回実施、参加者 29名 ・防災×健口セミナー 参加者 41名 ・マイレージ応募者 119名 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加について 調理実習は昨年より回数を減らしたが、総参加者数も減っており、ニーズはあまりないと思われる。防災×健康セミナーは、同日に市民委員会等の会合などあり、参加者が少なかった。災害が少ない地域ということもあり、災害時のために普段から口腔ケアをしておかなければという意識にはあまりならなかったと思われる。歯科受診しないと応募できないことが定着しつつあるためか、マイレージの応募数が昨年より減少した。 ・栄養について 学生作成の栄養レシピ(7種類×100部ずつ)は、全て住民が持ち帰った。調理実習参加者から、他のサークルでも適正体重の講話をしてほしいと依頼があり、さらに16名の住民に講話を実施。やせの弊害や、自身のBMIについて知る機会を作っていた。 事後のアンケートで、「10食品群チェックを継続している」「タンパク質摂取の重要性を知った」のチェックが多かった。BMI21.5未満のやせの方が約3割。やせだが、10食品群チェックシート上は7点以上が多い。摂取量が少ない、または摂取量<活動量の可能性あり。やせていることを自覚し、太りにくい体質でもさらにやせないよう気をつけていく必要はあるが、生活上特に支障を感じていないため、事後アンケートで栄養士の支援につながった方はいなかった。食事が足りずやせの方がさらにやせて退院したケース、糖尿病治療中の方でDr.には体重を増やさないよう言われているが(BMI16)、健診ではフレイルリスクありでやせないよう指導され、本人が食事に困っているケース等あり、医療機関での栄養管理にも課題がある。 ・口腔について OF-5 2点のオーラルフレイルは37.8%。応募者の中で歯科未受診は8名。歯科受診を促し、5名は新規受信につながった。応募をきっかけに歯科受診した方からは、「歯科受診し、おくちの状態がわかりよかった。」との声が聞かれた。口腔の取組みを行っている方は習慣化している方も多い一方で、地域全体を見ると歯科受診や歯科検診がなかなか浸透しない。 ・これまでの継続の成果と課題 応募者は10食品群チェックで7点以上の方が多く、半分以上の方が応募期間終了後もチェックを継続している。歯科受診やおくちの健康体操も定着してきている。事後アンケートでもタンパク質摂取の必要性や、歯科受診・口腔ケアが元気の秘訣と回答している方も多く、令和3年から継続してきた事業は、介護予防の意識向上と行動変容に寄与したと思われる。 課題としては、「事業に参加しない住民の意識向上」「食事に課題があるが、栄養相談を希望する住民が少ない」「医療機関の栄養管理」があげられる。 	参加料収入 11,000円を含む 81,000	済 81,000 予 0 計 81,000	0

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
7	永山南きづな・ほのぼのバザー事業 (永山南きづな・ほのぼのバザー実行委員会)	<p>障がい福祉事業所が作成したパンや木工作品等を認知症当事者や障がい者が役割を担いながら販売するバザーを開催することで、「認知症になったら、障がい者になったら何もできない!」というイメージを払拭しつつ、当事者が活躍でき、再度、社会に繋がることができる場とする。</p> <p>地域の施設や住民が絆を深めながら活躍することで、「あらゆる年齢のすべての人々の健康な生活を確保し、福祉を促進する」というSDGsの目標を達成する役割を担い、地域社会との関わりを持つことにつなげる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 永山南きづな・ほのぼのバザーの企画・会議の実施 認知症、障がい当事者の方の活動の場の提供 開催について地域への周知活動と地域住民の参加促進 地域企業との連携 <p>・きづな・ほのぼのバザー 開催日時 令和7年9月12日(金) 13:30~15:30 会場 永山住民センター</p>	<p>入場受付は行っていないため、詳細な来場者数は把握できていないが、100名以上の入場者があったと想定している。</p> <p>認知症当事者、障がい者の方には、当事者活動として商品の販売や赤い羽根共同募金の受付担当をしてもらい、来場者の方との交流や対応をしてもらっている。</p> <p>バザーで売り上げた収入については、参加していただいた当事者の方への給料という形や赤い羽根共同募金へ一部還元をしている。</p> <p>地域企業として、北かり様や男山様から当日の協力や商品の協賛をいただいている。</p> <p>また、明治安田生命様にも協力をいただき、当日、骨密度や血管年齢測定など、各種健康測定ブースを設けている。</p> <p>当事者の方の活躍の場、多世代交流の場として実施ができたと評価している。</p>	50,000	済 予 計 49,989 0 49,989	11
8	永山魅力発見隊事業 (永山魅力発見隊実行委員会)	<p>まだ知らない永山の魅力を発見し、多くの人に知ってもらうことを目的に「永山魅力発見ツアー」を実施した。</p> <p>今年度は、木のまち旭川から生まれた旭川家具やクラフトと、永山で採れたサツマイモの魅力を知ってもらうため、旭川家具工業協同組合職員による講話と道産材を使用した木のスプーン作り、サツマイモムースタルトの調理を体験。最後に自分で制作したスプーンでタルトを試食した。</p> <ul style="list-style-type: none"> 実施日 令和7年11月15日(土) 参加者 16名 永山小2名、永山南小6名、永山西小1名、永山東小2名 計11名 保護者5名 協力 旭川家具工業協同組合、北海道旭川農業高等学校 	<p>参加者やその保護者からは、旭川家具の売り上げや職人の技術、タルト調理の際の高校生との交流に魅力を感じたという声が寄せられた。</p> <p>ツアー当日は、STVあさひかわ、あさひかわ新聞が取材を実施。11月22日(土)の旭川市民ニュースで放映されたほか、11月25日号のあさひかわ新聞に記事が掲載された。参加児童などからのアンケートなどをもとに、ツアーレポートにまとめ、この事業を通じて発見した永山の魅力を発信していく。</p>	74,000	済 予 計 30,831 0 30,831	43,169

No	事業名 (実行委員会)	事業の実施内容	成果と課題	予算額	済：支出 予：支出予定 計：(済+予)	予算残
9	中学生と高齢者の合同演奏会事業 (中学生と高齢者の合同演奏会実行委員会)	<p>永山中学校吹奏楽部の学生と高齢者が音楽を通して世代間交流を図ることを目的として実施した。</p> <p>「デイサービス生きる音」が地域の世代間交流とデイサービス利用者に発表の場を設けようと企画されたもので、今回は全国大会に出場した永山中学校吹奏楽部との合同演奏会を開催した。</p> <p>第1部ではデイサービス利用者、第2部では永山中学校吹奏楽部が演奏し、フィナーレでは、来場者、デイサービス利用者と一緒に、学生の演奏に合わせて歌って踊り、大いに盛り上がった。幼稚園児や小学生も特別ゲストとして参加していたき、歌を披露するなど世代間交流もできた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催日 令和7年10月5日(日) ・場所 永山公民館大ホール ・来場者数 250名 	<p>全国大会出場の永山中学校吹奏楽部の素晴らしい演奏を聴くことができた。</p> <p>演奏側と会場の観客がひとつになり、改めて音楽のすばらしさを感じる事ができた。</p> <p>演奏した高齢者自身は今回の演奏会を目標に日々努力し発表することができたことで高齢者自身の生きがいにつながった。</p> <p>会場の問題もあるが、発表した高齢者の出入りに時間がかかり、スケジュール通りに演奏が進まなかったことが課題である。</p>	<p>全て 自己資金 37,200</p>	<p>済 37,200 予 0 計 37,200</p>	0
		全実行委員会合計	全実行委員会合計	442,800	<p>済 312,098 予 0 計 312,098</p>	130,702